

私がなぜ現在の科目を選んだか

「歯科口腔外科学」

信州大学医学部歯科口腔外科学講座
田中宏和

歯学部に入學したときにまず驚いたのが、内科、小児科といった医科の科目の他に歯科の中にこれまでも細分化された科があるのかということでした。保存修復科、補綴科、歯周科、歯内療法科、矯正科、インプラント科、口腔外科などがあり、その中でもさらに細かく分かれています。根の専門の学問であったり、齶蝕専門の学問であったりといった感じです。大学在学中は将来どの診療科に進もうかと常に悩んでいたのを覚えています。自分の大学では1年生の時から研究室に属しながら研究を行うシステムになっていましたが、最初は補綴科の総義歯学講座に属し、次に矯正科に鞍替えし、最終的に口腔外科といろいろと浮気をしていました。口腔外科が私にとって魅力的だったのは、大胆かつ繊細な技術が要求され、また全身管理も学べる

ということでした。卒業後の研修先を選ぶ際は長野県出身ということもあり、迷わず信州大学口腔外科を希望しました。口腔外科というと手術や抜歯といった外科処置がメインであり齶蝕や義歯といった一般治療は行わない施設がほとんどですが、信大の口腔外科は一般治療も行いながら口腔外科も行うといった特色があり、その点も魅力的な要因の一つでありました。一般治療を行うことは、口腔外科医としても大変重要なことであり、手術に対するアプローチを術後の咀嚼機能や嚥下機能を考えた上で組み立てることができるようになると思います。

私は歯科マッチング制度が導入され、2期生にあたりますが信大のプログラム希望者は数多く、全国の中でも毎年人気の高いプログラムです。その環境で研修を行えることに感謝し、充実した日々をおくらせて頂いております。研修もそろそろ2年間のプログラムが終了しようとしています、口腔外科の端っこを囓った程度といったところでしょうか。これからも医局の先生方、また他科の先生方に支えられ自分の選んだ道を精進していきたいと思っています。

(日大平19年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「歯科口腔外科学」

信州大学医学部歯科口腔外科学講座
松本和彦

現在、僕は口腔外科2年目の研修をしております。まずは歯科における口腔外科についてお話したいと思います。医科に外科、内科が分かれている様に、狭い分野ではありますが歯科にも内科的な分野と外科的な分野があると思います。今まで歯科の治療といえば、神経を抜くとか、差し歯を入れるとか、義歯を入れるとか、歯を抜くとかの技術を要するものがほとんどでした。技術がメインという意味で歯科は、外科に通じるものがあるのではないのでしょうか(侵襲が小さいですが……)。しかし最近では予防歯科というものが騒がれ、内科的な要素を含んだ分野が広がり始めました。この中で口腔外科はどこに位置しているのでしょうか。ズバリ口腔内という垣根を越えた外科の分野になると考えています。

本題ですがこのような分野でやってみようと思ったのにはある過程があります。最初はやりたくない→やってみようかな→やってみたくて気持ちが変わったのです。内科、外科にかかわらず医者は多忙であることは学生のときから分かってはいました。しかし当初、外科は3Kで何か飛び込みづらい雰囲気や生死と直結するというイメージがあり、リスクを背負いたくないと感じていたのが事実です。しかし学生時代に部活の先輩が口腔外科に進んでいたこと、また大学時代の仲のいい友達も口腔外科を希望していました。このことからもお分かりの通り、良く学生時代には口腔外科について話題になりました。口腔外科をやっている先生方、口腔外科を希望している友達ともに非常に情熱的で、バイタリティのある人たちばかりでした。決して他の科の先生がそうではないというわけではありませんが、僕は周りの人からエネルギーをもらい、口腔外科を選んだわけです。今後はこのエネルギーを後輩にも分け与え、一人でも多くの方が口腔外科を選んでもらえるようならいいな—と思っています。

(新潟大平19年卒)